

創刊にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、平成26年度には、京都市内はもとより、京丹後市、舞鶴市、京田辺市、和束町などの地域で、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなった。その成果の一部は、京都府立大学文化遺産叢書シリーズとして公刊しており、本年度も『和束地域の歴史と文化遺産』を文化遺産叢書第9集として刊行する予定である。しかし、こうした研究や調査の多くは、個々の研究課題ごとに異なったかたちで成果をとりまとめて公表してきたため、歴史学科の調査研究活動の全容が把握しにくいという問題があった。

一方、歴史学にかぎらず学問をとりまく環境という面からみると、近年とくに研究成果の活用、社会への還元ということがつよくもとめられている。歴史学科では、これまでも、地域との連携、歴史や文化遺産の活用、専門知識の還元といった活動を継続的におこなってきた。そうした活動の成果は、ホームページに掲載するなどして、学内外への発信をおこなっているとはいえ、それらを一書にまとめた刊行物はなく、成果が十分に周知されてきたとはいえない。そこで、今回新たに『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』を創刊し、歴史学科の教員および学生が中心になって実施している調査研究の概要を報告集としてまとめることにした。

本書は4部から構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集で、第Ⅰ部は京都府域、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅱ部と第Ⅲ部は歴史学科の学部生と大学院生を主な対象として実施している課外の研修プログラムの報告集で、第Ⅲ部は文化遺産デザイン研修、第Ⅳ部は文化遺産フィールド研修の報告を収録している。そのなかには、第Ⅲ部の文化遺産デザイン研修のように、これまでまとめたかたちで報告を作成してこなかった活動も含んでいる。本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。